



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

迫力レース市街地で

9月29日、県庁や市役所周辺の道路を舞台に自転車レース、まえばしクリテリウムを開催。各レースに子どもからプロまで約350人が参加しました。あいにく大会途中から雨天となりましたが、水しぶきを上げながら迫力あるレースを展開。来訪者を魅了しました。



前橋の未来を語り合う

9月29日に群馬会館で、まえばしめぶくトークを開催。エバーノートジャパン元会長の外村仁さんが、最先端のイノベーションについて講演しました。トークセッションでは前橋で求められるイノベーションを議論。どのような未来を目指すか語り合いました。



平成最後の粟の献穀を

宮城地区の伝統行事、粟の献穀拔穂祭を9月24日に行いました。秋の宮中行事「新嘗祭」献上用の粟を刈るこの行事は、昭和25年に始まり今年で69回目。早男・早乙女の衣装をまとった子どもたちが自身の身長ほどもある粟の穂を、手を伸ばしながら懸命に収穫しました。

いきいき
まえばし人
高校生外交官プログラムに参加
矢島 向日葵さん・17歳
前橋女子高



国際的なリーダーを目指して

今年の夏、AIG高校生外交官プログラムに参加し、3週間、アメリカで国際的なリーダーを目指すプログラムに取り組んだ矢島さん。
「小学生の頃から英語が好き。中学生で市のオーストラリア派遣研修に参加してから、このプログラムにも参加したいとずっと思っていました」
将来の夢は外交官。滞在中、政府機関訪問の機会もあった。「国務省の外交官の人に、真のリーダーになるにはと質問したら、完璧である必要はない。足りない部分は仲間と補い合えばいい、と言われたことが心に響きました」
同じ志を持つ全国の高校生たちとの交流もかけがえのないものとなった。
「それぞれ強みや個性、リーダーの素質を持っていて、刺激し合えました。今も交流があります」
プログラムの報告会でリーダーとして奮闘する矢島さん。高校では学級委員を務め、部活動で始めた空手では黒帯を取得するなど学校生活にも全力で取り組む。
「学んだことを支えてくれた人たちに還元できるようにこれからも頑張りたい」
強い意志を持ちながらも周囲への心遣いを忘れない矢島さん。日本をリードする存在になる日が待ち遠しい。

創造の森から アーツ前橋 館長日記 Vol.4



岡アーツ前橋
☎027-230-1144

アーツ前橋の住友文彦館長が日々のあれこれをつづるこのコーナー。第4回は開催中の企画展「岡本太郎と『今日の芸術』」についてです。

「芸術は爆発だー!」。市川海老蔵や中村獅童ら歌舞伎役者にも負けないあの顔は忘れられないですよね。芸術家を身近に感じられる存在にした岡本太郎は変な人のように思われている面もありますが、日本の戦後文化に大きな影響を与えた最も重要な人物です。彼は作品だけでなく数多くの本も書き、若い世代を鼓舞しました。そのメッセージは、今なお、現状に満足している人を挑発し、満足しない人々を励ますでしょう。今年は大阪万博公園の「太陽の塔」も



岡本太郎《燃える人》1955年
東京国立近代美術館蔵

一般公開され、太郎ブームも再燃必至です。「岡本太郎と『今日の芸術』」展で、斬新な思想を狭い美術の世界に留めず、幅広く人々に語りかけた岡本とぜひ出会ってください。
「つまりく石の縁」(10月12日〜11月4日の金土日のみ)では近隣のスペースを使って、これまで前橋に滞在し作品制作を行った国内外10組のアーティストの展示を行います。これは前橋の魅力や文章にした本をまず手にとってもらい、散歩をしたり、お茶を飲んだりしながら作品を見るイベントです。秋の気持ちいい季節に、アーティストたちはどんな風に前橋を見たのだろうと好奇心を膨らませて出掛けてください。地元再発見の小さな旅です。いつもの場所においても、芸術は私たちを新しい場所に連れて行ってくれるはずですよ。